



上空から見た技術実証フィールド（2022年10月）

○技術実証事業の新たな試験が始まっています

県外最終処分の実現に向けて、除去土壌等の減容・再生利用に関する技術について、2024年を目処に基盤技術の開発を一通り完了することを目指すこと、としており、国をあげて技術実証事業が進められています。

JESCOでも、2016年からこれまで様々な課題を解決するための技術実証事業を進めてきました。最終処分量の低減を図るためには、除去土壌等の再生利用の実現が重要な課題ですが、減容化に伴う副生成物（スラグ）等の利用や、輸送後の使用済み資

材（大型土のう袋）の再生利用等の課題解決も同時に進めなければなりません。

*技術実証フィールドでは、今年度からの事業として、除去土壌の品質を調整し、十分な品質を持つ土壌にすることを検証（鹿島建設）、減容化の為に除去土壌を分級した際に発生する砂をコンクリート用細骨材として再生利用することの検証（VOREWS）、そしてプラスチックリサイクル原料として活用するために使用済み土のう袋を洗浄・分離することの検証（J&T環境）が実施されています。昨年度からの継

続事業として溶融スラグの再生利用方法の検討（大林組）、ジオポリマーを用いて放射性セシウムの濃縮した飛灰などを固化化する検討（大成建設）が実施されています。

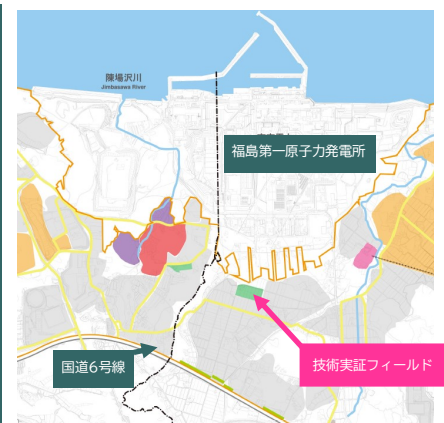
その外、JESCOと国立環境研究所の共同研究も含め、現在、技術実証フィールドで、6つの実証事業が実施されています。

*中間貯蔵区域内の実際の土壌や廃棄物を用いて民間企業、大学、研究機関等の知見を活かし技術開発を行える施設群

本年度の公募実証テーマと事業者の一覧

区分	実証テーマ名	実証事業者	フィールド利用
2020～	・溶融スラグの再生利用等技術の実証	株式会社大林組	○
2021～	・除去土壌と溶融飛灰と脱水ケーキ等をジオポリマーの固型化材料として利用する技術	大成建設株式会社	○
	・高吸水性樹脂含有改質材を含む低放射能濃度除去土壌を大量に再生資材化するための品質調整技術の実証	鹿島建設株式会社	○
	・除去土壌を分級処理した砂をコンクリート用細骨材に利用するための技術実証	除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合（VOREWS）	○
新規	・保管大型土のう袋再資源化の技術実証検討	J&T環境株式会社	○
	・除去土壌中の放射性セシウムの溶融塩・酸処理法による脱離とゼオライトを用いた回収・安定化による減容・再生利用技術の開発	法政大学	
	・除去土壌Cに対して20μmを分級点とする分級と脱水処理システム	株式会社不動産テラ	
	・湿式比重選別法および吸水性固化材を用いた再生土品質の向上	早稲田大学	

技術実証フィールドの位置



○8月25日に知のネットワーク会合を開催

6回目の開催となりました知のネットワーク会合は、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたことを受け、初めて福島県で開催することができ、約100名の方にご参加いただきました。今回の会合では、除去土壌等の処理の方法や施設の内容、ロードマップ、地域への経済効果など、様々な議論をおこなうことができました。

また、復興をさらに進め未来に向かっていくためには、地域の将来について広い視点で考える必要があること、技術的要素と社会的要素を繋いでいく必要があることなどの多くの課題があることが指摘されました。

登壇者(敬称略)

- ・吉田 学
-HAMADOORI13 代表
- ・遠藤 秀文
-株式会社ふたば 代表取締役社長
- ・廣永 茂雄
-アジア航測株式会社
- ・神徳 敬
-株式会社大林組
- ・地井 直行
-西松建設株式会社
- ・竹下 健二
-東京工業大学
- ・今井 啓祐
-JESCO中間貯蔵事業部

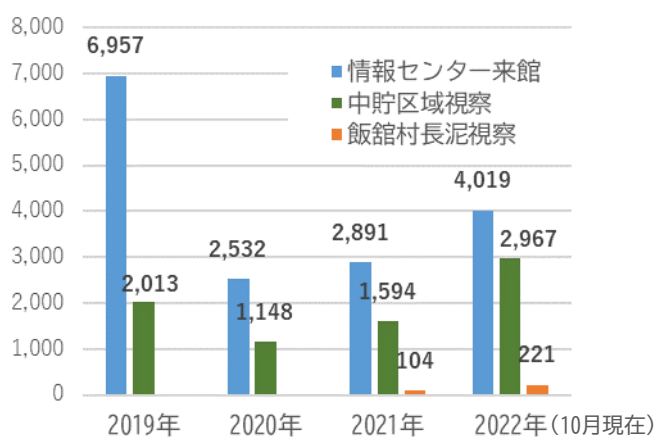


登壇の様子(JESCO今井)

○中間貯蔵施設への来訪者数が伸びています

2022年は、情報センター来館者数だけをみると新型コロナウイルス感染症の影響を未だ受けているとみられますが、中間貯蔵区域視察者数は10月時点で2019年比140%と大幅に増えています。また、9月の来所者の85%が福島県外の方だったことから、全国的な関心の高さをうかがわせます。

年間来所者数(2022年10月まで)



中間貯蔵区域視察の様子

アンケート結果より

- 「インターネットだけでは知ることのできない中間貯蔵施設のリアルを多く感じられました。」
(東京都 20代)
- 「説明して下さった方の想いが伝わってきて目がうるむほどでした。とてもわかりやすかったです。有意義な時間を過ごせました。」
(大阪府 20代)
- 「30年後の県外処分を目指すならもっと広く知る機会を増やすべき。」
(神奈川県 40代)
- 「2045年に運び出しを見届けられない。ここは若い世代に見て欲しい施設です。」
(田村市 50代)

減容化・再生利用を考える知のネットワーク会合 第7回開催のお知らせ

中間貯蔵事業の現状の報告と併せて、本年1月の知のネットワーク併催企画 第18回講演会に続き、浜通り地域の復興について考えます。

日時: 2023年1月20日(金) 午後

場所: 日比谷コンベンションホール

